

五島列島奈留島の島民の海の環境保全意識について

山口 健汰 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)
指導教員 中野友博

キーワード：海汚染，環境保全意識，五島列島，意識調査

1. 緒言

現在，海のごみ問題が世界的に問題となっている。海の汚染とは，海域や海水が人間の活動によって排出された物質で汚染されることである³⁾。現在，問題視しないとイケないのが韓国からの漂着ごみである。韓国からの漂着ごみに関して，外務省では以下のように報告している。

「近年，海流や季節風の影響により，主に冬場に，日本海沿岸地域に韓国語が記載された多数の廃棄物やポリタンクなどのごみが漂着している。海岸の景観が損なわれているだけでなく，漁業等の経済活動や残留物による健康への影響等も懸念される」¹⁾。筆者がインターンシップ実習で奈留島を訪れた際にも，島民の投棄や漂着物が目立った。

そこで本研究は，奈留島の島民の海の環境保全意識を明らかにする事を目的とする。

2. 研究方法

調査対象は，奈留島の島民 245 名とし，内訳は表 1 で示した。

表 1 調査対象の内訳 (名)

	住民	漁師	行政職員	合計
男性	99	19	11	129
女性	112	0	4	116
合計	211	19	15	245

山本ら⁴⁾の環境に対する意識調査を参考に海の環境保全意識の関心度として 4 項目に修正し，4 件法で回答を求めた。海の環境保全意識のアンケートは，住民，行政職員共に，山本ら⁴⁾のアンケート用紙を参考に，また，漁師を対象としたアンケートは，Livedoor NEWS²⁾で海のごみ問題について報告されている内容を参考に，作成し使用した。

3. 結果と考察

島民 (住民，漁師，行政職員) の海の環境保全意識の関心度を表 1 で示した。全体では，環境保全意識の関心度 13 点が一番多い。「大変心配」と「ある程度心配」の回答が多ければ 11 点以上になることから，島民の関心度得点は比較的高いところに集まり，環境保全に対する関心度があることが明らかになった。

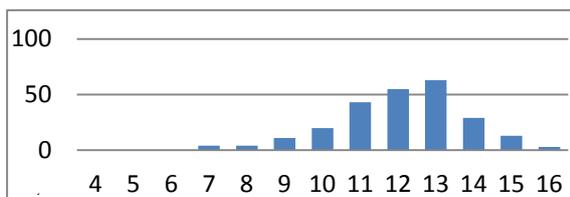


図 1 島民全体の環境保全意識の関心度得点

住民については，「海の汚染について興味がない」や「汚染は奈留島の問題ではない」といった回答が多く見られた。住民の多くは，「海に投棄したものは何もない」，投棄した事があるものには，「生ごみ」，「調理後の生ごみ」の回答が多かった。住民は，「生ごみ」をごみと考へてないことが明らかになった。しかし，「国や自治体のごみ対策に力を入れる」など，行政に望む意見が多く見られた。自ら投棄したものが，ごみであると意識していないこと，住民の投棄ごみが海の汚染に関わっていないと考へている。環境保全意識の関心度は高いが，環境保全意識はまだ低いことが明らかになった。

漁師については，「海岸でのごみ拾いを実施している」の回答が多く得られた。ごみ拾いの感覚では行わず，海岸で拾った，釣り具やバケツなどを再利用している漁師が多い。使えるものは再利用，使えないものは放置という現状が起きている。漁師へ作業中に出たごみを海へ投棄したことはあるか質問したところ，半数以上が海へごみを投棄したことが明らかになった。捕獲対象魚が減っていると理解しながら投棄しているため，環境の関心度は高いが，環境保全意識は低いことが明らかになった。

行政職員については，「奈留島の海の汚染の進行が速い」などの回答が得られ，奈留島の海の汚染に関して意識していることが明らかになった。「毎日ごみを投棄している」といった回答は 0 名であり，投棄したものは「魚を捌いた残り物」のみであった。海の環境に害するものは投棄していない事や，今後の環境保全を意識した自由記述が多かった。環境保全意識は比較的高いことが明らかとなった。

4. まとめ

島民の環境保全意識は低いことが明らかになった。男性は，環境保全意識について行政に望む事が多く，女性は，自分たちで行う意思が強いことが明らかになった。環境保全の期待に関しては，奈留島の海の汚染の改善を目的とした意見が多くなった。なお，今後の課題として，本調査では奈留島の島民 245 名へのアンケートを行ったため，対象人数を増やし調査する必要がある。

引用・参考文献

- 1) 外務省. 韓国からのポリタンク問題
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/korea/polytank.html> (2016 年 10 月閲覧)
- 2) LivedoorNEWS (2016) 魚が食べられなくなる日は近い? 乱獲以上に深刻な海のプラスチックごみ問題
<http://news.livedoor.com/article/detail/11146205/> (2016 年 10 月閲覧)
- 3) 松永勝彦・久万健志・鈴木祥広 (1998) 海と海洋汚染，地球サイエンスシリーズ ②，第 3 刷，p. 54. p. 56. p. 57
- 4) 山本賢治ら (1993) 環境問題に関する意識調査，鹿児島国際大学，社会調査実習報告書 4，pp. 171-201